

とらいあんぐる菅生

<http://sugao.ky.hp.infoseek.co.jp>

E-mail:toraianguru@mx81.tiki.ne.jp

SUGAO+1 公開学習会 地域と学校で学力アップを

8月21日、菅生中学校区地域教育会議生涯学習委員会主催の「公開学習会 SUGAO+1」が開催され、50人が参加。地域と学校が協力して学力を上げるために何ができるかをグループワークの形で話し合いました。

1994年に菅生中学校区地域教育会議が発足。2000年以降、地域教育会議のあり方を根本的に見直そうと、住民の学校運営への参画をめくって何度も話し合いがもたれました。2002年に規約改正が行われ、保護者、地域住民、教職員等の大人である私たち一人ひとりが、その実現方法を提示していく義務と責任があるという前文が付け加えられました。

生涯学習委員会では、2004年から、3校の授業を地域住民として客観的に見る参観を行いました。同委員会からだされた率直な意見や疑問の質問状に対し、当初、学校からの反発があったものの、その後、生徒と保護者からの授業に対するアンケート調査も行われるようになり、本音で意見を言い合うことで信頼関係ができてきました。

同委員会は、ここ数年、子どもたちの学力を上げようと学習会を開催。昨年は、地域と学校の協働について考え、今年はさらに一歩進んで、学力を上げるために地域と学校と一緒に出来ることを具体化するためにこの学習会を企画しました。

◆グループワークで具体的な提案が次々と・・・

グループワークを進めるにあたり、参加者の共通理解を得るために、「小学校の評価基準の理念と実際」と題して菅生小学校・本田先生から、「中学校の評価基準の説明」を菅生中学校・金井校長からそれぞれ説明していただきました。

子どもたちの学力を上げるために地域と学校ができることは何か。話し合いの導入として、工藤委員から「①教員は、子どもたちが社会で生きていくための学力を身につけさせるようにしなければならない。②地域の人材や地域資源を活用していくこと」のポイントが示されました。

6つのグループに分かれ、各人が提案を書き出し、意見交換をしたところ、総数で156件(教員81件、保護者・地域75件)の提案が出されました。うち、



学校への提案は59件、地域への提案64件、家庭への提案が33件でした。学校へのおもな提案は、個々の子どもへの対応や授業の工夫、情報公開など。地域へは授業の補助、子どもを含めた地域のつながりをつくることなど。家庭へは基本的な家庭生活や家庭内のコミュニケーションの重要性などでした。

◆まずできることから始めてみよう

まとめとして、「学力」をどうとらえるのかについて様々な意見が出ましたが、ここでは小中学校での基礎学力をつけるという視点に立ち、授業についていくのが困難になっている子どもが自信をもつことができるように、地域と学校が協力し合うことが大切であることが確認されました。実施にあたっては、放課後、地域の人が教育ボランティアという形で学校に出向き、補習など一歩ずつでも進めていくことから始めてはどうかといった具体的な意見が出されました。

金井校長は「地域・保護者・学校がこういう議論を交わせる菅生の学区の子どもたちはすごく幸せだと思う」と話しました。

閉会にあたり、神原小学校・三ツ橋校長は「この生涯学習委員会の取り組みは長い歴史がある。初めは対立したこともあったが、現在は少しずつでも一緒にやっていると知っている。本音で語り合い、子どもたちのために何ができるか真剣になって積み重ねてきたことは子どもたちにもいい影響ができてきた。もっと協力しあっていけばさらにいい学校、いい地域教育会議になっていくと思う」と結びました。

◆教員は支援を望み、地域は力になりたい

同委員会では、今回の学習会で出された提案を整理・分類し、次のように感想を述べています。「基礎・基本を徹底させることは、現在の1学級1教師のあり方では限界があることは皆が感じており、地域からの授業の補助や授業外の支援を望む提案が多く出され、教員からのなんらかの支援を望む声と、何とか力になりたいという地域の声が見えていた話し合いになったと思います」。同委員会では、さっそく具体的に検討を進めたいとのことでした。

菅生中学校区地域教育会議

平成 19・20 年度総会開催

6月12日(木)、平成20年度の担当校、稗原小学校にて総会が開催されました。

「かわさき教育プラン」では地域教育会議の学校教育への支援・参画および地域教育の中核を担う必要性が謳われています。今年14年目を迎えた菅生中学校区地域教育会議は、この理念を先進的に掲げ、実現すべく活動してきました。これまで定着してきたそれぞれの活動をさらに発展させていくためにも、PTA・地域住民への周知活動が必要です。

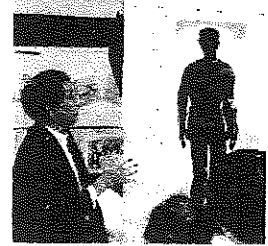
この会議では、毎年総会のたびに、新たなメンバーとともに自らのあり方を見直していこうと、さまざまな学習会を合わせて開催してきました。今年は、地域教育会議の初心に立ち返るべく、元菅生中学校校長・元川崎市教育委員会教育推進事業担当指導主事である江頭秀夫さんにお話していただきました。江頭さんは地域教育会議の創設当初からかかわってこられた方です。

右、囲み記事に内容をまとめました。

地域と学校の協働

地域教育会議がめざすもの

江頭 秀夫さん



1980年代、豊かな社会とは裏腹に、青少年の「非行・暴力・登校拒否・いじめ」などが、社会問題となっていました。これを受けて、1984年「教育は本来地域に根ざしたもの」として、川崎の教育推進事業は始まりました。川崎の教育を考える市民会議(市内40団体)の242ヶ所、4万人に及ぶ市民討議をうけて、川崎市教育懇談会(学識経験者13人)が1986年「いきいきとした川崎の教育をめざして」を市長に提言しました。ここで地域教育会議の創設が提言され、市内51中学校区地域教育会議となったのです。

地域教育会議は地域住民の自主的組織だからこそ、日常生活に根ざした教育を実現することができます。子どもからお年寄りまでの生涯学習、まちづくり、地域の諸団体との連携・ネットワーク化、地域コミュニティとしての学校の活用、地域人材の発掘・育成と活用など。今後地域教育会議がめざすべきは、各委員の情熱・意欲によって、「行きたい学校」「帰りたい家庭」「住みたい地域」をつくりだしていくことではないでしょうか。



平成 20 年度菅生中学校区地域教育会議委員

議長：芝原 尚子(公) 副議長：菅野 礼子(公) 板津 昌目(自)

事務局長：生駒 みを(公) 会計：篠澤 惺子(公) 当番校：稗原小学校

◎委員長 (公) 公募 (P) PTA (自) 自治会 (子) 子ども会 (防) 防犯委員 (青) 青少年指導員

	生涯学習 委員会	地域教育学習 委員会	情報 委員会	子ども会議	宮前区地域教育会議 担当
選出委員	◎秋山かつ枝(公) 山田 千鶴(公) 工藤文比古(公) 伊藤千代子(公) 大野 貞代(公) 乗松 美貴(公) 田中 純子(公) 花里 真里(公) 城所 秀男(P) 大森 三代(P) 吉本 敦子(P) 山田 和穂(P) 岩淵 摩美(P)	◎古川ツグ子(子) 瓜田 育美(公) 西村 雅一(公) 菅野 礼子(公) 花谷佐智子(公) 嘉門 利弘(P) 福井 玲子(P) 佐藤 里織(P) 清水 敬子(P) 板津 昌目(自) 丸山 蠶子(子) 新井 通夫(防) 眼部 征男(防) 石田 一豊(青) 甲田 純也(青)	◎永井 早苗(P) 丸山 敦子(P) 七浦美知子(公) 芝原 尚子(公) 篠澤 惺子(公) 生駒 みを(公) 田中 ルミ(P) 古澤 友子(P) 丸山 幸一(自)	生駒 みを(公) 佐藤 利枝(公)	篠澤 惺子(公)
非選出委員	本田 和彦 (菅生小)	小柳津百合子 (子育て支援センターすがお) 山本 啓子 (感謝こども文化センター) 川原 篤 (菅生中)	針山 直幸 (菅生こども文化センター) 小柳 俊子 (菅生分館) 和泉 千代子 (稗原小)	辻 敏明 (菅生中) 本田 和彦 (菅生小) 菅原 節子 (稗原小)	
	菅生小学校：[校長] 柴崎 淳 [教頭] 丸山 衛 [教諭] 本田 和彦・池田 靖 稗原小学校：[校長] 三ツ橋 敏幸 [教頭] 水沼 富士位 [教諭] 和泉 千代子・菅原 節子・稲生 佳也・西原 邦雄・菅野 周子 菅生中学校：[校長] 金井 則夫 [教頭] 太田 啓子 [教諭] 川原 篤・辻 敏明・小松原 明恵・鹿島誠司				

菅生小学校のとりくみ：菅生っ子音頭

♪ 音楽を通して子どもたちの心を育てていく♪ 明るく歌声で 心豊かに

今年度当初は「平瀬川の歌」を、学校をあげて歌ってきましたが、「菅生小学校の歌」を作ってみなで歌いたいという気持ちが高まり、宮前連合音楽会(10月28日)に参加する4年生を中心に実行委員会を作り、作詞・作曲をすることにしました。「菅生小学校のイメージは」と歌詞募集を行ったところ「緑」「笑顔」「元気」が多く集まりました。さらに曲を作るうえで、「元気に明るく声を出してもらいたい」という気持ちを込めて、冒頭に先生からの掛け声を入れ、みんなの思いが詰まった詞ができました。メロディーは音楽担当の岡田先生が作り「元気な躍動感」を表現するために、スキップのリズムを多く取り入れました。和太鼓・締太鼓・エイサー太鼓(沖縄)・鉦(チャンチキ)・鈴・リコーダーを使って祭りの雰囲気を出しています。

★ 菅生小学校ふれあいフェスティバル<11月8日(土)>のオープニングで全校生徒が合唱します。パワーあふれる歌声を是非聴きにきて下さい。

菅生っ子音頭
平成二〇年九月制定
川崎市立菅生小学校
菅生っ子音頭実行委員会作詞
岡田敏江作曲

一、緑いっばい 菅生っ子
笑顔いっばい 菅生っ子
伸び伸び育つよ 菅生の子
みんな仲良く 菅生っ子
ドンドコドンドコ ドンカドン(ワレ)
菅生っ子音頭で ドンカドン(ワレ)
仲良く歌って ドンカドン

二、元気いっばい 菅生っ子
夢がいっばい 菅生っ子
楽しく学びよ 菅生の子
みんな楽しんで 踊ろうよ 菅生の子
ドンドコドンドコ ドンカドン(ワレ)
菅生っ子音頭で ドンカドン(ワレ)
楽しく踊って ドンカドン

報告

菅生中学校区子ども会議

子ども会議では、中学生による実行委員会が「まちづくり」をテーマに活動を進めています。今年度の活動はこれからですが、昨年度はまちのごみ問題を考えようと、ゴミ拾い香休み一日ツアーということで菅生のまちへくり出しました。川の中のごみを拾ったり、小さな発見を楽しみながら道端のごみを丁寧に拾い、大量のごみを集めてきました。粗大ゴミが堂々と捨てられている所もありました。こうしたまちの現状を肌で感じ、子どもたち自らができることを提案し、まちづくりを考えるきっかけにしたいと思います。なお、これまでの活動が今年7月に発行された「川崎こどもニュース」にも取り上げられました。



オヤジの会 神原小 防災体験キャンプ

神原小学校において、7月20日・21日の1泊2日で「神原小防災キャンプ 2008～楽しみながら親子で防災について考えよう!～」が行われ、48世帯114名の親子が参加。神原小父の会 POWERS が中心となり、学校をはじめ、後援会「ひえばら会」・神原小学校区自主防災組織他、地域の方の力強い協力を得て企画。避難所となっている同小で、地域初の防災体験キャンプとして、大地震発生を想定し、電気やガスがストップした環境下での生活・宿泊体験をした。

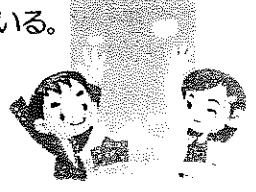
夕食の時子どもたちは、アルミの空き缶と牛乳パックでご飯を炊く技(サバイバルメシニサバメシ)に挑戦。大人たちはカレー・とん汁の炊き出しを行った。夜は、親子でキャンドルファイヤーを楽しみ、体育館でダンボールをクッションにして眠った。

父の会 POWERS 会長山田さんは「今回の防災キャンプは地域の方々の協力があってこそ成功し、また学校・地域・保護者同士のコミュニケーションの大切さを実感した。今後も防災キャンプを続けていく。」とのこと。

中学生の力で 自主学級を企画 菅生こども文化センターの取り組み

菅生こども文化センターで、中学生たちの手で自主学級を企画しようと、実行委員会が8月末から始動。菅生分館の自主学級を支援するという制度を利用したことだ。実行委員長・副委員長も選出され、みんなでワイワイガヤガヤ。「大風を作って菅生中であげたい」という提案にメンバーは大乗り気。講師まで探し当てたが、製作日数が20日もかかることを知り、今回は断念。何回かの話し合いを経て、①ジャンボ餃子作り、②一日乗車券で浮島へ行き魚釣り、③ピタゴラスイッチ、④燗鍋大会、⑤中学生ができる簡単豪華料理などがあがっている。

知恵と工夫によって、夢を実現させるための方策を考えること・・・生きた「学習」をしている。今後、自分たちの企画のもとに募集するという「責任」の重さを「学習」していければと思っている。実行委員は固定していない。いつでもやりたい人は仲間どうぞ!



菅生神社 秋祭の地域と一体 教師も児童も嬉って出演

菅生神社例大祭は毎年10月第1日曜日に行われ、その宵宮で、近隣の芸自慢が一堂に会する「演芸大会」が開催された。この大会は、昭和50年に稗原、長沢、蔵敷、初山、犬蔵の5地区の青年会が集まって結成された菅生青年同志会が主催し、今年30回を迎えた。

「あれ、對馬先生じゃない?」。闇に包まれた境内でひとときわ明るい神楽殿での奉納芝居『坂本龍馬』で、近藤勇を演ずるのは元菅生中学校長對馬醇一先生だ。

同志会が、演芸大会や御輿巡幸の準備など忙しい中、稽古を重ねてきた。冒頭の對馬先生も、縁あって校長ならぬ新選組局長として再登場となった。舞台の背景画は、菅生中学校美術部の力作で、演芸大会のめぐりも、同中書道部が腕を振るった。

今年の一般出演者は37組。唄あり、踊りあり、演奏・演舞あり、日ごろ鍛えた芸を披露する。もちろん子どもたちも大活躍。稗原・長沢・蔵敷の子ども会などの子どもたちが次々と舞台に立つ。小中学校3校も常連だ。稗原小学校からは4年生全員が稗原太鼓を打ち鳴らし、菅生小・中学校からは先生たちが競いあう。菅生小学校の柴崎校長を始め9人の先生が、『菅生っ子音頭』(3ページ)を初披露、さらに今流行の「キセキ」などを熱唱した。菅生中学校からは野球部顧問の小嶋先生らが野球部員11人を率いて野球コントで場内を沸かせた。日ごろとは違う先生方の姿に、場内から「先生がんばれ」の声も飛び、蔵敷こども太鼓連の演奏が一般出演の締めを飾った。

午後2時半から9時までと6時間半に及ぶ長丁場で、緊張しながら舞台に立ち拍手を浴びた子どもたちも、座り込んで飲み食いしながら笑い転げた子どもたちも、地元の人たちの熱意に支えられて楽しんだ一日を思い出としたことだろう。

今年も『中学生の映像づくり、応援します!!』
～映画監督・企業(ソフト)人が、ナビゲーター～
第2回みやまえ映像コンクール

家にある、お気に入りビデオを編集して、宝ものにしてみよう!!
自分が住むお気に入りの町や人を紹介してみよう!!
中学生のお気に入りなら何でもオッケー。プロ並の映像にしちゃおう!!

まずは、申し込みを。初めてでも大丈夫。とにかく体験してみよう!!

申込 宮前「くみん・シネマ」実行委員会 (篠澤)

e-mail: tukiyono7@y6.dion.ne.jp

TEL090-8331-1415

宮前区役所企画課

TEL044-856-3136



防衛省協の広場についての動き ～ワークショップにご参加を～

昨年10月発行の本紙に掲載された防衛省協の広場。その後について、中心として活動されていた一の丸自治会長の川口尊志さんからお話を伺った。

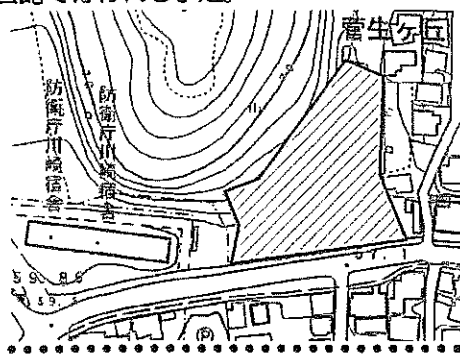
2003年からの地域の方々の活動が実り、2007年、川崎市は、この広場を含む3千平米の土地を、都市緑地法による「特別緑地保全地区」として都市計画に定め、緑地の恒久的な保全に努める「菅生ヶ丘特別緑地保全地区」に指定し残すこととなった。

管理方法をみんなで考えるための第一回ワークショップが9月20日(土)に行われ、21人の参加があった。川崎市環境局緑政部緑政課職員と区域の確認や自然観察をした後、緑地に対する思いを話し合った。

参加者からは、散歩道や遊歩道、イベント広場などの意見が出たが、行政は、地形はそのまま使ってほしいということだった。これからもワークショップを開き、意見をまとめていくことになる。来年度に意見集約し、22年度にはその計画で実際に動き出す予定。

川口さんは「地域の人の意見がたくさんほしい。現状は、年2回行われる自治会の催しのために地域の方々が下草狩りをしている。ただ管理を住民に押し付けるだけでは離れていってしまうだろう。自然を守りながらも地域の役に立ち、住民が率先して管理する場所にしたい。今後、ワークショップのなかで折り合いを見つけながら話し合っていきたい」と話す。

次回のワークショップは11月15日、9:15～稗原団地自治会館で行われる予定。



♪ 菅生の町の音楽祭

学校と地域が力を合わせ、地域教育の向上に役立てばと願っての「菅生音楽祭」も今年で5年目。

今年も保育園から小・中学生はもちろん、大人の方々やご年配の皆さんまで、幅広い地域の方々の参加が予定されている。



日時: 12月13日(土)10:00～15:00予定

場所: 菅生中学校体育館

* 詳しくは後日パンフレットをお配りします。